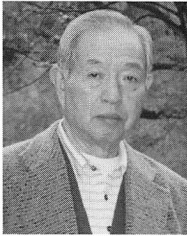


## 還暦を迎えて



(S 30) 清谷 利次

創部60周年、人生であれば還暦の年である。この目出度い節目の年に歩を合わせる様に、現役は17年ぶりに春季西日本学生リーグ戦2部優勝、1部昇格を果たし、我々OBに大きな喜びをプレゼントしてくれました。1部優勝を目指して精進して下さい。近年、我が部はSF推薦入学により実績のある選手の入部があり、充実強化されつつあること、少数だった部員も20余名を擁するまでに回復してきたことなどは、練習に活気と競争心が生まれ復活への良い流れが期待されます。振り返って私が入部した57年前、昭和26年にタイムスリップさせてみよう。

まず、初代主将下村正三先輩との出会いが強く印象に残っている。創生期の練習では、初代主将と云うことで、初代監督村田恒太郎氏（明大出身）は、日本を代表する名選手、明大流の激しく厳しい練習、きつくて練習量は3倍、まさに残酷物語と云った練習の繰り返しであり、先輩はその情景など話してくれましたが、レスリングは、「苦しい」の一言だと。村田氏は、「初代主将は実力を付け部員を指導する責務ありとして、下村との稽古は凄愴なようなものだった。」と述懐されています。そして忍耐と努力で実力を付けて、初代主将としての重責も果たされ、全日本で大活躍をされました。私は、相撲部出身、自信があったのは四股で鍛えた足腰の強さ位のものであった。先輩との練習は、来る日も来る日も歯が立たずに辛い厳しい日々が過ぎたが、10月頃4年生だった下村先輩は就職先の都合で練習に

来られなくなった。しかし、村田氏譲りの卓越した技量で6ヶ月余の厳しかった練習とご指導を頂いたお陰で、私は4年間のレスリング活動を全うすることが出来ました。強くて、人にやさしく、温かかった先輩に満腔の感謝の意を捧げる次第です。翌年昭和27年に横山勝利君が入部、柔道部出身で受け身の上手さについては、柔道界の偉才廣瀬巖八段のお墨付きであった。当時4年生には安川健次（2代目主将）押立吉男（3代目主将）宇賀照夫、木村勝といった軽量級の猛者がおられ、その洗礼を受けるのである。新人には大変だし、楽なわけがないが決して弱音を吐かない男であった。外柔内剛と云うが、外見と違って根性もあり、辛抱強く、決して諦めない男でもある。そのエピソードとして、アメリカ遠征でテリー・マッキャン選手（当時オリンピックチャンピオン）との試合で勝利した後、本人曰く、尻の穴が開いたかと思ったと、つまり、諦めず力を出し切った死闘だったのである。この下地は、すでに新人の頃から培われていた。トレーニングでもよく先輩から声がかかる。「オイ！ヨッコン（横山の愛称）ぶら下がりだ、腹筋だ。」と云って腹の上に乗られよく鍛えられていたが、決して逃げず黙々とこなしていた。正に辛抱の上の花が咲いたのである。基本のタックルが上手く、股裂き技は天下一品で関西では敵なし、日本のトップレベルの選手として国内外で活躍した。彼は、オリンピックに行けるのではないかと期待したが、残念ながら果たせなかったのである。同時代にマッ

トで汗した仲間、強豪宇賀大三郎君、静かなる闘将佐々木敏君、柔と剛の強者乾哲夫君、闘志の人丸谷博俊君、柔よく剛を制すの若林正敏君等々と一緒に流したマット上の汗は、素晴らしい友情を残してくれた。いつ会っても昔の友に戻り、今昔を語り合いながらの楽しい一刻は、何物にも勝る私の宝であると感謝している。前記重量級以外の面々にも同様に感謝しております。昭和29年国体前に練習のため別当正恵氏（慶大出身）川本晴紀氏（慶大出身）橋本秀顕氏（明大出身）山崎次男氏（関学出身）のチャンピオンクラスの錚々たる選手が来られて、懸命に練習したことも楽しい懐かしい思い出です。昭和28年29年鳥取夏季合宿、この頃はのんびりスローライフの時代で、当時乗り合いバスは停留所以外でも手を挙げれば止まって乗せてくれた事、人々は親切で、合宿所のご夫妻は我々元気の良い若者の面倒を親身になってみてくれるなど、人情厚き時代でよき日本人気質がそこかしこにありました。私の嫌いな早朝ロードワ

ークでは朝焼けの空澄んだ空気、そして静寂の中、広がる野原と野道、そして草原にはのんびりとした牛の姿が散見されるのどかな風景の中をゴール目指し走った。今も忘れられないよき時代の合宿であった。

レスリング番外編として、弟利美はアメリカ遠征で知り合った日系女性（二世）と現地結婚、当時の現地新聞に、何故か「柔道師範清谷利美氏日系二世嬢と結婚」とあったのが滑稽だった。余談として、日本ボディビルコンテストが大阪毎日ホールで何度か催され八田一郎会長（日本ボディビル協会会長でもあられた）が来阪されたが、横山勝利君とミナミの割烹料理店などで酒盃を傾けながら、我々はレスリングの東高西低を嘆いたり、楽しい談笑の中に時間となり、新大阪駅までお見送りし、八田一郎レスリング協会会長バンザイーで締めくくるのである。「狩りの犬 獲物を追って 何処までも」八田一郎会長の一句を掲げ、関西大学レスリング部の復活を祈りたい。